

「大切なのは自ら動くこと」

○…神奈川県身体障害者 視覚・聴覚障害者や肢体不
福祉大会は、県身体障害者 自由な人たちなど、約1千
連合会主催で9月7日に市 人が集う。長年障害福祉に
文化会館で行われる。横浜 従事し顕著な功績を修めた も多い。綾瀬に来て良かつ
・川崎を除く県内各地から 人たちを表彰すると共に、 たと思える集いにしたい」

人物風土記

題字は
笠間市長



●県身体障害者福祉大会の受け入れを行う
綾瀬市身体障害者福祉協会会長を務める

西川 和朗さん

寺尾釜田在住 65歳

と笑顔を見せる。

○…市内の障害者が所属する同協会は、昨年50周年を迎えた。様々な行事で会員の親睦を深め、障害福祉の課題を行政に働きかけるのが主な活動だ。しかし、団体に所属しなければ情報が入らなかつた昔と違い、最近は情報ツールの発達で個々に動けるようになったため若い世代が増えないのが悩みだという。「協会が消滅してしまうと孤立する人が出てしまう。そうならないよう魅力ある会にしたい」と、意気込みを語る。

○…東京生まれ。父親の仕事で各地を転々とし、30年ほど前から綾瀬で暮らし、28歳の時の交通事故が原因で、自身も車いす生活を送る。「医者に『一生車いすでの生活になる』と言われた時は本当にショックだった」と、振り返る。「あの時、子どもはまだ1歳と3歳。奥さんに負担はかけられないし、落ち込んでいた暇はなかった」。家族のため苦しいリハビリを乗り越え、事故から1年半で退院し、復帰を果たした。

○…退院後は事故前から勤めていた会社で4年程働いたあと、障害者のケアやサポートをする団体「FLC」をリハビリ病院時代の仲間と立ち上げた。「障害者を持ち、外に出れない人のために何かしたい」という思いが突き動かし、「自分がこれだけ頑張ったのは、家族や仲間がいたからこそ。自分に出ることをやっていけば必ず手伝ってくれる人はいらる。内にこもらず、新しい道を見つけて欲しい」。同じように障害を持つ人たちに、エールを送る。